

第69回文化財展を開催しました!

平成30年は明治元年(1868)から起算して満150年に当たる年でした。12月5日～9日にかけて開催した文化財展は『明治150年～文化財からたどる仙台の近代化～』をテーマに、せんだいメディアテークで行いました。市内には約780もの遺跡がありますが、その中でも明治時代の遺跡についてはあまりよく知られていません。今回は明治時代を中心に、出土遺物や解説パネルを通じて当時の生活の様子などを紹介しました。

また、最終日には東北大学総合学術博物館館長の藤澤敦先生による『仙台城の明治維新』と題した記念講演会を開催しました。明治時代の仙台城の状況について、発掘調査の成果を踏まえて明らかにしていただきました。会場は立ち見が出るほどの大盛況でした。

平成31年度、第70回文化財展は、5月14日(火)から7月7日(日)まで東北電力グリーンプラザとうほく文化情報コーナーで開催されます。



展示の様子

拓本体験コーナー

講演会の様子

出前授業 出前講座

見て・聴いて・感じて発見!

仙台市文化財課では、小学校・中学校を対象に出前授業を、市民の皆様を対象に出前講座を行っています。大昔の土器や石器、瓦など、発掘調査で見つかった遺物を活用した授業、仙台や地域の歴史について文化財を通して知っていただく講座などを実施しています。

今年度は、120件を超える出前授業、50件に及ぶ出前講座を実施しました。文化財課職員がポイントをしばって、仙台の魅力、歴史の奥深さをご紹介します。見て・聴いて・感じて発見できることがあります。私たちの身近にある文化財。授業で、講座で、感じていただきたいと思ひます。

お問い合わせは、文化財課整備活用係(TEL 022-214-8893)まで。



小学校での出前授業の様子

中学生の校外学習の様子

出前講座の様子

遺跡見学会など最新の文化財関連情報は仙台市文化財課のホームページで!!
<https://www.city.sendai.jp/kurashi/manabu/kyoiku/inkai/bunkazai/>

文化財 せんだい

No.123

平成31年(2019年)2月発行
 仙台市教育委員会文化財課
 仙台市青葉区上杉一丁目5-12
 上杉分庁舎 10階
 〒980-0011 Tel:022-214-8893

Topics! 仙台城跡で遺跡見学会を開催しました!

仙台城跡の一角にある造酒屋敷跡は、城内で酒造りを行ったという全国的に見ても極めて珍しい場所です。伊達政宗は1608年(慶長13年)に大和国(現在の奈良県)から又右衛門という職人を招き、「榎森」という苗字を与え、酒を造らせました。これまでの調査では、6代当主の「榎森与左衛門」の名が記された荷札木簡が出土したり、複数の建物跡や酒の原料である米を蒸すために使われたと考えられるカマド跡なども見つかっています。

今回の調査では、建物の柱を支える礎石跡が見つかりました。発見された位置が以前の調査で見つかった建物跡の南辺に当たることから、この建物の範囲を明らかにする大きな手がかりとなりました。また、屋敷地の北端部分では、排水に使われていたと考えられる石組溝跡や、堅く締まったかつての地表面が発見されました。この地表面は江戸時代に使われていた登城路の一部の可能性があり、もしかしたら政宗もここを通っていたのかもしれない。

平成30年11月24日(土)に開催された遺跡見学会には、150名という多くの市民の皆様にご参加いただきました。発掘調査を担当した文化財課職員の解説に耳を傾けながら遺構や遺物を見学することで、かつての仙台城の様子に思いを馳せていたようでした。



遺跡見学会の様子

文化財公開の日

平成30年11月3日の文化の日に、文化財公開の日「東照宮と仙岳院・清浄光院」を開催しました。午前・午後あわせて40名の方にご参加いただき、徳川家康を祀る東照宮、江戸時代に東照宮の別当寺であった仙岳院、万日堂と呼ばれた清浄光院の文化財を見学しました。また、平成30年は明治元年からちょうど150年となることから、それぞれの場所で戊辰戦争に関わった人物や歴史についても紹介しました。



東照宮見学の様子



続報！仙台発掘調査

平成30年度も市内では数多くの発掘調査を行っています。その中からいくつかの調査をご紹介します。

きょうのなか遺跡

京ノ中遺跡は、地下鉄富沢駅の南西約1.5kmに位置する平安時代から中世にかけての遺跡です。これまでの調査では、平安時代の竪穴住居跡2軒のほか、土坑・溝跡・ピット(柱穴)を確認しています。今回の調査では、平安時代の竪穴住居跡と土坑のほか、中世の遺構としては木柵と溝跡に囲われた範囲から掘立柱建物跡・竪穴遺構・土坑を確認しました。出土した遺物は少ないですが、土師器や須恵器、中世陶器が見つかりました。



発掘調査の様子



溝跡や井戸跡などを発見した様子

いまいち遺跡

今市遺跡は、JR岩切駅の西約1kmに位置し、七北田川右岸の自然堤防上に立地しています。これまでの調査から、古墳時代から近世にかけての遺跡であることがわかっています。今回の調査は共同住宅の建設に伴い行われました。調査の結果、古代から中世にかけての溝跡・井戸跡・土坑が確認されました。また、土師器や中世陶器などの遺物も見つかりました。



発掘体験の様子

やまだうえのだい遺跡

山田上ノ台遺跡はJR長町駅の西約5kmに位置する旧石器時代から近世の遺跡で、「縄文の森広場」として整備されています。今年度は昨年に続き、縄文時代の人々が使用しなくなった土器などを捨てた場所(遺物包含層)を調査し、縄文土器や石器などが見つかりました。調査期間中には発掘体験も行われ、たくさんの市民の皆様に参加していただきました。



文化財サポーター養成講座

文化財の保護と活用を支援するサポーターの養成講座を全10回の内容で実施しました。応募を頂いた25名の受講生の方々には、仙台北城下のまち歩きや大崎八幡宮の見学、山田上ノ台遺跡での発掘体験などのそれぞれ特色ある講座を通して、仙台の文化遺産にふれていただきました。来年度も実施予定です。詳しくは市政だよりやホームページなどを通してお知らせします。



第4回講座「発掘体験」



第8回講座「史跡陸奥国分寺跡を巡る」

平成30年度 文化財サポーター養成講座

	内 容	日 時	場 所
第1回	開講式・講座「文化財の魅力」	8月18日(土)	向田文化財整理収蔵室
第2回	「ぶらり仙台北城下町めぐり」	9月1日(土)	地下鉄東西線国際センター駅～大日堂(柳町)
第3回	「国宝大崎八幡宮と龍宝寺の仏像」	9月29日(土)	大崎八幡宮・龍宝寺
第4回	「発掘体験」	10月13日(土)	縄文の森広場
第5回	「仙台北城跡見学」	10月27日(土)	仙台北城跡
第6回	「市内の政宗関連文化財めぐり」	11月10日(土)	若林城跡・瑞鳳殿
第7回	「文化財展見学」	12月9日(日)	せんだいメディアテーク
第8回	「史跡陸奥国分寺跡を巡る」	12月15日(土)	史跡陸奥国分寺・尼寺跡ガイダンス施設
第9回	「仙台の正月 歴史民俗資料館見学」	1月12日(土)	仙台市歴史民俗資料館
第10回	閉講式・「地底の森ミュージアム」	2月2日(土)	地底の森ミュージアム

史跡陸奥国分寺・尼寺跡の歴史講座「木ノ下の歴史と文化財」

第1回	「陸奥国分寺・尼寺跡の創建と復興」	2月16日(土)	史跡陸奥国分寺・尼寺跡ガイダンス施設
第2回	「伊達政宗と陸奥国分寺薬師堂」	2月23日(土)	史跡陸奥国分寺・尼寺跡ガイダンス施設
第3回	「薬師堂界隈の仏像と奥の細道景勝地」	3月2日(土)	史跡陸奥国分寺・尼寺跡ガイダンス施設
第4回	現地にてフィールドワーク	3月9日(土)	史跡陸奥国分寺・尼寺跡

「明治150年」第3回

平成30年(2018)は明治元年(1868)から150年の年でした。

◇昭忠碑(青葉区 川内)

昭忠碑は、陸軍第二師団所属の戦没者を慰霊する目的で、明治35年(1902)に、仙台北城本丸跡に建立された碑です。昭忠碑は20m余りの石塔の上に両翼を広げた鴉(翼長約6.7m)のブロンズ像を設置したものでした。ブロンズ像は、「日本書紀」において神武天皇の軍を勝利に導いたとされる金色の鴉をモチーフにしています。石塔の中央に掲げた「昭忠」の銘板は小松宮彰仁親王の揮毫によるもので、「昭忠」とは忠義を明らかにするという意味があります。戦前の金属供出を免れた明治期制作のブロンズ彫刻作品として、希少なものとされています。

平成23年3月11日の東日本大震災では、頂部にあった鴉像が落下、破損し、塔にも亀裂が入るなどの被害を受けました。破損した鴉像は、平成26年5月から文化庁補助事業として保存修復事業が開始されました。平成27年7月には修復のため東京に運び、修理されて、平成28年10月に基壇上に設置されています。



本丸跡にある昭忠碑